

平成 30 年度  
● 2018 ●  
**SYLLABUS**  
(講義概要)

別冊



京都ノートルダム女子大学

講義コード	講義名	コース番号	期間	頁
<b>共通教育科目</b>				
GEH1250N0J	日本文学	GEH1250	後期 …	1
GEH1201N0J	日本近現代史	GEH1201	前期 …	1
GEH1251N0J	日本の宗教	GEH1251	後期 …	2
GEN1450N0J	暮らしの統計学	GEN1450	前期 …	2
GBE2300B0E	日常の英会話B	GBE2300	後期 …	3
GBE2301B0E	おもてなしの英会話B	GBE2301	前期 …	3
GBE2301D0E	おもてなしの英会話D	GBE2301	前期 …	4
GBE2350B0E	旅行の英会話B	GBE2350	後期 …	4
GBE2351A0E	留学の英会話A (上級)	GBE2351	後期 …	5
GBE2352N0J	歌って覚える英語表現	GBE2352	後期 …	5
<b>人間文化学部英語英文学科</b>				
EGB1302C0E	Listening I C	EGB1302	前期 …	6
EGB1303C0E	Speaking I C	EGB1303	前期 …	6
EGB1306N1E	TOEFL I	EGB1306	前期 …	7
EGB1352C0E	Listening II C	EGB1352	後期 …	7
EGB1353C0E	Speaking II C	EGB1353	後期 …	8
EGB1356N1E	TOEFL II	EGB1356	後期 …	8
EGB2302C0E	Advanced Listening I C	EGB2302	前期 …	9
EGB2303C0E	Advanced Speaking I C	EGB2303	前期 …	9
EGB2352C0E	Advanced Listening II C	EGB2352	後期 …	10
EGB2353C0E	Advanced Speaking II C	EGB2353	後期 …	10
EGE2201N0E	Popular Culture	EGB2201	前期 …	11
<b>人間文化学部人間文化学科</b>				
CSA2258N1J	古文書読解	CSA2258	後期 …	11
<b>現代人間学部福祉生活デザイン学科</b>				
SWA2200N1J	社会保障論 I	SWA2200	前期 …	12
SWA2450N1J	社会保障論 II	SWA2450	後期 …	12
<b>現代人間学部心理学科</b>				
PSA1551N1J	社会・集団・家族心理学 I (社会・集団)	PSA1551	後期 …	13
PSA2203N1J	消費者行動の心理学	PSA2203	前期 …	13
PSA2500N1J	対人関係論	PSA2500	前期 …	14
PSB1250N0J	行動科学概論	PSB1250	後期 …	14
<b>現代人間学部こども教育学科</b>				
EDN2251N0J	教育の方法と技術	EDN2251	後期 …	15
EDP2450N0J	音楽科指導法	EDP2450	後期 …	15
<b>平成28 (2016) 年度以前入学者</b>				
講義コード	講義名		期間	頁
<b>生活福祉文化学部生活福祉文化学科</b>				
245067N1J	公的扶助論		前期 …	16
245318Z0J	基礎技能造形 Z		前期 …	16
245346Z0J	保育相談支援 Z		前期 …	17
245283N1J	福祉行財政と福祉計画		後期 …	17
<b>心理学部心理学科</b>				
265110N0J	現代社会調査演習 I		前期 …	18
265111N0J	現代社会調査演習 II		後期 …	18
268044N0J	音楽科指導法 (16以前)		前期 …	19
268050N0J	保育内容指導法 (環境)		後期 …	19
268051N0J	保育内容指導法 (言葉)		前期 …	20
268052N0J	保育内容指導法 (表現)		後期 …	20

講義コード (Course Code)	GEH1250NOJ
授業名 (Course Title)	日本文学
N D 6 (Diploma Policy)	2: 知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担当者 (Instructor)	武田 悠希
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	1 前
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	プリント配付
参考文献 (References)	『読むための理論』石原千秋・他世織書房 1991 『アダブテーションの理論』リンダ・ハッチオン晃洋書房 1991 『小説の方法』真鍋正宏書房 1991 『現代文学理論』土田知則新曜社 1991 『超入門！現代文学理論講座』藤沼正美筑摩書房 1991 6. 小森陽一・他『岩波講座文学』(岩波書店、2004、ISBN : 9784000112017) その他、授業内で適宜参考文献を紹介する。
備考 (Note)	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

日本文学の表現と、文化背景について理解する。第一に、言語で表現された文学の特徴について考える。講義予定の後半では、アニメ・ドラマ・映画など、物語を表す他ジャンルの表現と比較して、言語表現の独自性や可能性を理解する。第二に、国際交流の中で形づくられてきた、日本文学の特徴について考える。古代から近現代まで、日本は当時交流のあった国の文化の影響を受けながら、独自の表現を生み出してきた。その歴史と、具体的な表現の特徴を理解する。これら二つの視点をふまえ、日本文学に対する概説的知識を身につけ、言語表現としての文学を分析し読解できることを目指す。

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- ・文学表現の鑑賞方法を学び、表現の豊かさを理解する。
- ・具体的な文学表現を読解し、日本文学の特徴を理解する。
- ・文学表現の背景にある、日本文化の特徴を理解する。
- ・近年の批評・研究を参照し、日本文学の今日的意義を理解する。

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

- ・文学表現の鑑賞方法を学び、表現の豊かさを理解する。
- ・具体的な文学表現を読解し、日本文学の特徴を理解する。
- ・文学表現の背景にある、日本文化の特徴を理解する。
- ・近年の批評・研究を参照し、日本文学の今日的意義を理解する。
- ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)
- ・授業で紹介した文学作品や参考文献を読解する。
- ・紹介した作品以外にも読書体験を広げ、日本語表現について自分の考えをまとめる。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
45 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

評価は、授業参加度 (30%)、毎時間の意見文 (30%)、学期末のレポート (40%) により行う。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 文学とは何か
- 第2回 表現と読書体験
- 第3回 小説のことば・語り
- 第4回 明治20年代における日本語表現の模索
- 第5回 読者層の拡大と表現の展開
- 第6回 近代小説の様々な表現論
- 第7回 芥川龍之介「蜘蛛の糸」の言語表現
- 第8回 芥川龍之介「蜘蛛の糸」の読書体験
- 第9回 芥川龍之介「蜘蛛の糸」の特徴 (原典、映像表現との比較)
- 第10回 上橋菜穂子「精霊の守り人」の読書体験
- 第11回 上橋菜穂子「精霊の守り人」の特徴 (映像表現との比較)
- 第12回 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」を読む (言語表現と映像表現)
- 第13回 現代作品における小説表現の試み
- 第14回 様々な表現の可能性
- 第15回 近代小説の表現の特徴

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

- ・試験に代わり、レポートを提出する。

・レポートを書く際に、他人の書いた文章をコピーペーストしたものは認めない。

※授業の進捗状況や参加者の様子などを判断した上で、授業予定を一部変更する可能性がある。

講義コード (Course Code)	GEH1201NOJ
授業名 (Course Title)	日本近現代史
N D 6 (Diploma Policy)	2: 知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担当者 (Instructor)	小林 健太
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	1 前
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

この科目は、日本史のなかでも特に近代史・現代史の分野を講義します。高校までの日本史のように、ただ暗記するだけではなく、「その出来事が歴史の流れのなかでどう位置づけられるか」ということに重点を置きたいと思います。歴史 (学) では「なぜ、そうなったのか」と考えることがとても重要だからです。この講義を通して、皆さんがすこしでも歴史の「なぜ」に興味を持っていただけたら幸いです。

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 歴史は過去のものではなく、現在にも影響を及ぼしていることを理解する。
2. 中学校や高校の「教科書」に書かれていることだけではなく、多彩な歴史の世界を認識する。

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 歴史は過去のものではなく、現在にも影響を及ぼしていることを理解する。
2. 中学校や高校の「教科書」に書かれていることだけではなく、多彩な歴史の世界を認識する。

### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各テーマに関係した著書・論文・メディア情報などより、自分で問題点・疑問点を考えておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

1. 評価は、確認テストまたはレポート (人数による) で行う。原則的にテストの点数で単位認定を行います。
2. 講義3分の2以上の出席をテスト (レポート) の参加 (提出) 資格とします。
3. 毎講義時に提出してもらう当該講義の意見の記述は、特に必要と判断される場合に評価の参考とします。たとえば、病気など不可避な理由でテストを欠席した場合、上記提出の意見を基に評価を行います。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 ガイダンス 日本史の時代区分と日本近現代史の概要
- 第2回 日本の近現代とはどのような時代か
- 第3回 開国と倒幕
- 第4回 明治維新
- 第5回 明治維新
- 第6回 国会開設・帝国憲法
- 第7回 日清・日露戦争
- 第8回 大正デモクラシーと第一次世界大戦
- 第9回 世界恐慌
- 第10回 日中戦争
- 第11回 太平洋戦争
- 第12回 占領下の日本
- 第13回 独立と高度経済成長
- 第14回 沖縄返還と現代の日本
- 第15回 総まとめと確認テスト

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

近年、学生の読書量減少が問題となっているので、講義時に論文などを読んでもらい、理解力や表現力も身につけてもらいたいと考えています。

講義コード (Course Code)	GEH1251N0J
授業名 (Course Title)	日本の宗教
N D 6 (Diploma Policy)	2: 知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担当者 (Instructor)	小林 健太
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	1 後
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

日本の宗教を学ぶことは、日本の文化を学ぶことにつながります。日本には古来から存在する習俗に、仏教やキリスト教などの外来の宗教が融合して文化を形成してきました。そこで本講義では、日本においてどのような宗教が存在し、歴史・文化にどのような影響を与えてきたかを考えたいと思います。

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 「宗教」という講義ですが、難しい教義ではなく、身近なものに焦点を当てて、その問題を考えます。
2. 日本の「宗教」を通じて、自分の生活がそれにより成立している側面を理解してもらいます。

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 「宗教」という講義ですが、難しい教義ではなく、身近なものに焦点を当てて、その問題を考えます。
2. 日本の「宗教」を通じて、自分の生活がそれにより成立している側面を理解してもらいます。

### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各テーマに関係した著書・論文・メディア情報などより、自分で問題点・疑問点を考えておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準 (Evaluation)

1. 評価は、確認テストまたはレポート (人数による) で行う。原則的にテストの点数で単位認定を行います。
2. 講義3分の2以上の出席をテスト (レポート) の参加 (提出) 資格とします。
3. 毎講義時に提出してもらった当該講義の意見の記述は、特に必要と判断される場合に評価の参考とします。たとえば、病気など不可避な理由でテストを欠席した場合、上記提出の意見を基に評価を行います。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 ガイダンス 宗教はなぜ必要か (宗教をなぜ学ぶのか)
- 第2回 古代の宗教
- 第3回 中世の宗教①—神仏習合
- 第4回 中世の宗教②—鎌倉新仏教の登場
- 第5回 中世の宗教③—一向一揆と政治権力
- 第6回 近世の宗教①—幕府の宗教政策
- 第7回 近世の宗教②—キリシタンの問題
- 第8回 近世の宗教③—流行神の誕生
- 第9回 近代の宗教①—廃仏毀釈と仏教教団
- 第10回 近代の宗教②—明治政府の宗教政策
- 第11回 近代の宗教③—戦争と宗教
- 第12回 現代の宗教
- 第13回 日常生活のなかの宗教①—初詣
- 第14回 日常生活のなかの宗教②—お墓参り
- 第15回 総まとめと確認テスト

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

近年、学生の読書量減少が問題となっているので、講義時に論文などを読んでもらい、理解力や表現力も身につけてもらいたいと考えます。

講義コード (Course Code)	GEN1450N0J
授業名 (Course Title)	暮らしの統計学
N D 6 (Diploma Policy)	4: 思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担当者 (Instructor)	後藤 伸彦
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	1 後
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『統計数字を読み解くセンス』青木繁伸 化学同人 2009 『悩めるみんなの統計学入門』中西達夫 技術評論社 2009
備考 (Note)	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

統計学は、数学の中で最も生活に密着した分野であり、また、企業においても、数学の中で学んでもらいたい分野の上位にあげられることが多い。本科目では身近な暮らしに関係した統計データを基に、統計学を学ぶことで、社会における様々な統計データを読み解く能力を身につけることを目標とする。

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 統計データの種類や集計法の理解
2. グラフの種類と特徴の理解
3. 統計データの代表的な指標の理解
4. 二変量データの表現の理解

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 統計データの種類や集計法の理解
2. グラフの種類と特徴の理解
3. 統計データの代表的な指標の理解
4. 二変量データの表現の理解

### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業前に授業資料を読んで予習しておく。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準 (Evaluation)

課題レポートを数回提出してもらおう。テストは行わず、提出物(100%)に基づき評価を行う。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 データの取得
- 第3回 データの入力
- 第4回 様々なグラフ
- 第5回 代表値
- 第6回 分散・標準偏差・標準誤差
- 第7回 相関関係と因果関係
- 第8回 帰無仮説とその棄却
- 第9回 2変数の比較
- 第10回 分布
- 第11回 帰帰
- 第12回 分散分析 (1) 主効果
- 第13回 分散分析 (2) 交互作用
- 第14回 帰帰分析を用いた交互作用の検定
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

講義コード (Course Code)	GBE2300B0E	
授業名 (Course Title)	日常の英会話B	
N D 6 (Diploma Policy)	3: 言語力	
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15 時間	
担当者 (Instructor)	Katy Simpson	
単位数 (Credits)	1	
配当学年 (Eligible Year)	2 前・後	
前提科目 (Prerequisite)		
テキスト (Textbook)	『 Take it Easy 』 Herman BartelenCengage/National Geographic Learning Textbook is required for in-class discussions & speaking practice. The textbook will also be needed for homework due each week.	
参考文献 (References)		
備考 (Note)	定員 25 人	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

This course teaches students about developing oral fluency for daily communication in English. Focus will be given to building speaking confidence and understanding how English functions communicatively in social interactions.

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

Students will be able to build speaking confidence through student centered class activities and being made aware of the importance of discourse markers.

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

Students will be able to build speaking confidence through student centered class activities and being made aware of the importance of discourse markers.

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 15 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

Participation & class attitude 30%, homework assignments 40%, Final Project 30%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction: Text Unit 1 - Meeting & Greeting People
- 第2回 Oral Fluency: Discourse markers
- 第3回 Text Unit 2 - Growing Up: Past Tense questions and answers
- 第4回 Text Unit 3 - At Home & at School: Expressing frequency
- 第5回 Text Unit 4 - Going Out: Making plans
- 第6回 Text Unit 5 - Food and Drink: Expressing likes and dislikes
- 第7回 Text Unit 6 - The Future: Future tense questions & answers
- 第8回 Review of Units 1 - 6. Oral Fluency development practice / review discourse marker relevance
- 第9回 Text Unit 7 - Travel: Asking Directions
- 第10回 Text Unit 8 - Staying Healthy: Describing Routine
- 第11回 Text Unit 9 - People I know: Describing People
- 第12回 Text Unit 10 - Storytelling: Past progressive tense questions and answers
- 第13回 Text Unit 11 - Entertainment: Making phone calls
- 第14回 Text Unit 12 - Society: Making suggestions
- 第15回 Review Oral Fluency, Discourse Markers, Units 7 - 12. Final Projects evaluation

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

講義コード (Course Code)	GBE2301B0E	
授業名 (Course Title)	おもてなしの英会話B	
N D 6 (Diploma Policy)	3: 言語力	
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15 時間	
担当者 (Instructor)	Katy Simpson	
単位数 (Credits)	1	
配当学年 (Eligible Year)	2 前	
前提科目 (Prerequisite)		
テキスト (Textbook)	『Be My Guest-English for the Hotel Industry 』 Francis O' HaraCambridge University PressSeptember 2002	
参考文献 (References)		
備考 (Note)	定員 25 人	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

This course will help prepare students to use English for work in the tourism, hospitality and travel industries. Classes will cover a variety of situations including travel agencies, hotels, restaurants, or even just helping a stranger on the street. Students will practice realistic communication tasks to build confidence and improve fluency. Primary attention will be given to listening and speaking; however, some reading and writing will also be required.

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

Students will be able to handle various hospitality situations with confidence and fluency. In addition, students will improve their pronunciation skills through awareness-building, recognition, and production activities. Students will be able to build speaking confidence through student centered class activities.

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

Students will be able to handle various hospitality situations with confidence and fluency. In addition, students will improve their pronunciation skills through awareness-building, recognition, and production activities. Students will be able to build speaking confidence through student centered class activities.

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 15 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

Participation & class attitude 30%, homework assignments 20%, Quizzes 20%, Final Project 30%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction
- 第2回 The check-in
- 第3回 The hotel bedroom
- 第4回 Bathroom & porter
- 第5回 Services in the hotel
- 第6回 Locations of facilities
- 第7回 Room services
- 第8回 Problems & solutions
- 第9回 Taking bar orders
- 第10回 Restaurant orders & recommendations
- 第11回 Restaurant complaints, payment, & tipping culture
- 第12回 Places to visit
- 第13回 Enquiries
- 第14回 Using the phone
- 第15回 The check-out

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

講義コード (Course Code)	GBE2301D0E	
授業名 (Course Title)	おもてなしの英会話D	
N D 6 (Diploma Policy)	3: 言語力	
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15 時間	
担当者 (Instructor)	Katy Simpson	
単位数 (Credits)	1	
配当学年 (Eligible Year)	2 前	
前提科目 (Prerequisite)		
テキスト (Textbook)	『Be My Guest-English for the Hotel Industry』 Francis O' HaraCambridge University PressSeptember 2002	
参考文献 (References)		
備考 (Note)	定員 25 人	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

This course will help prepare students to use English for work in the tourism, hospitality and travel industries. Classes will cover a variety of situations including travel agencies, hotels, restaurants, or even just helping a stranger on the street. Students will practice realistic communication tasks to build confidence and improve fluency. Primary attention will be given to listening and speaking; however, some reading and writing will also be required.

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

Students will be able to handle various hospitality situations with confidence and fluency. In addition, students will improve their pronunciation skills through awareness-building, recognition, and production activities. Students will be able to build speaking confidence through student centered class activities.

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

Students will be able to handle various hospitality situations with confidence and fluency. In addition, students will improve their pronunciation skills through awareness-building, recognition, and production activities. Students will be able to build speaking confidence through student centered class activities.

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
15 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

Participation & class attitude 30%, homework assignments 20%, Quizzes 20%, Final Project 30%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction
- 第2回 The check-in
- 第3回 The hotel bedroom
- 第4回 Bathroom & porter
- 第5回 Services in the hotel
- 第6回 Locations of facilities
- 第7回 Room services
- 第8回 Problems & solutions
- 第9回 Taking bar orders
- 第10回 Restaurant orders & recommendations
- 第11回 Restaurant complaints, payment, & tipping culture
- 第12回 Places to visit
- 第13回 Enquiries
- 第14回 Using the phone
- 第15回 The check-out

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

講義コード (Course Code)	GBE2350B0E	
授業名 (Course Title)	旅行の英会話B	
N D 6 (Diploma Policy)	3: 言語力	
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15 時間	
担当者 (Instructor)	Katy Simpson	
単位数 (Credits)	1	
配当学年 (Eligible Year)	2 後	
前提科目 (Prerequisite)		
テキスト (Textbook)	『On the Road 1 (Tourism English for Travelers)』 Joseph Henley and Andrew CrosthwaiteCenage/National Geographic Learning Students will need to purchase the required textbook. Textbook is required for in-class discussions & speaking practice. The textbook will also be needed for homework due each week.	
参考文献 (References)		
備考 (Note)	定員 25 人	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

This course is designed to help to prepare students for travel abroad. Students will engage in a variety of activities using role-plays, activities, pair work, and group work to learn about various aspects of English speaking countries. The goal in this course is for students to be able to understand and use "survival Travel English" when they travel abroad. In addition, this course teaches students about developing oral fluency for daily communication in English while traveling abroad. Focus will be given to building speaking confidence in some typical travel situations.

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

Students will be able to build speaking confidence through student centered class activities which focus on understanding how to better use English for communicative purposes while traveling abroad.

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

Students will be able to build speaking confidence through student centered class activities which focus on understanding how to better use English for communicative purposes while traveling abroad.

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
15 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

Participation & class attitude 30%, homework assignments & reports 40%, Final Project 30%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Course Introduction
- Text Unit 1: Travel Plans
- 第2回 Text Unit 2: What Should I Bring
- 第3回 Text Unit 3: Catching a Plane - At the airport
- 第4回 Text Unit 4: Checking In/Out - At a hotel
- 第5回 Text Unit 5: Meeting Roommates
- 第6回 Text Unit 6: Housekeeping
- 第7回 Text Unit 7: Buying Groceries
- 第8回 Text Unit 8: Eating at a Market
- 第9回 Text Unit 9: Eating at a Coffee Shop
- 第10回 Text Unit 10: Getting Around the City
- 第11回 Text Unit 11: Where Am I? Asking Directions
- 第12回 Text Unit 12: I'm Sick
- 第13回 Text Unit 13: Museums for Free - Local Sightseeing
- 第14回 Text Unit 14: Do as the Romans Do - Local festivals / culture
- 第15回 Text Unit 15: Buying Souvenirs. Final Project Evaluations

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

講義コード (Course Code)	GBE2351AOE	
授業名 (Course Title)	留学の英会話A (上級)	
N D 6 (Diploma Policy)	3 : 言語力	
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15 時間	
担当者 (Instructor)	Katy Simpson	
単位数 (Credits)	1	
配当学年 (Eligible Year)	2 後	
前提科目 (Prerequisite)		
テキスト (Textbook)	『Communicate Abroad』 Simon Cookson and Chihiro TajimaCengage/National Geographic Learning Students will need to purchase the required textbook. Textbook is required for in-class discussions & speaking practice. The textbook will also be needed for homework due each week.	
参考文献 (References)		
備考 (Note)	定員 25 人	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

This course will focus on preparing students for studying abroad. Students will be given various tasks to complete throughout the course. These tasks will help students develop their self-reliance. In addition, students will improve their overall English skills, especially those skills needed to be a successful student studying abroad.

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

Students will improve their overall English skills. They will also develop greater fluency and the ability to express their ideas and opinions effectively using English. Students will become more comfortable and confident using English. They will become more autonomous and self-reliant in their approach to learning. They will become more prepared for study abroad.

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

Students will improve their overall English skills. They will also develop greater fluency and the ability to express their ideas and opinions effectively using English. Students will become more comfortable and confident using English. They will become more autonomous and self-reliant in their approach to learning. They will become more prepared for study abroad.

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

#### ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

Participation & class attitude 30%, homework assignments 40%, Final Project 30%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Course Introduction The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.
- 第2回 Text Unit 1: My Suitcase Is Overweight Airport check-in / Airline baggage rules
- 第3回 Text Unit 2: I'm Suffering from Jet Lag Jet lag / Time zones
- 第4回 Text Unit 3: Each Host Family Is Different Homestays / Host family rules
- 第5回 Text Unit 4: I'm Experiencing Culture Shock Cultural differences / Stages of culture shock
- 第6回 Text Unit 5: My Dormitory Is too Noisy Dormitory life / Suggestions and requests
- 第7回 Text Unit 6: How Can I Make Friends? Making friends / Activities overseas
- 第8回 Review Units 1 - 6. Oral Fluency Development & Discourse Markers
- 第9回 Text Unit 7: What Should I Talk About? Talking with people / Conversation topics
- 第10回 Text Unit 8: I Feel Homesick Missing Japan / Dealing with homesickness

第11回 Text Unit 9: How Do I Order Food? Ordering and paying in a restaurant

第12回 Text Unit 10: I Lost My Passport

Losing something / Valuable possessions

第13回 Text Unit 11: I Need to Go to Hospital

Going to a clinic or hospital / Health advice

第14回 Text Unit 12: I Don't Want to Leave

Preparing to return to Japan / Benefits of going abroad

第15回 Review Units 7 - 12. Final Project Evaluations.

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

The course may be flexible, and the syllabus is subject to change. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics and level of the students.

講義コード (Course Code)	GBE2352NOJ	
授業名 (Course Title)	歌って覚える英語表現	
N D 6 (Diploma Policy)	3 : 言語力	
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15 時間	
担当者 (Instructor)	Katy Simpson	
単位数 (Credits)	1	
配当学年 (Eligible Year)	2 後	
前提科目 (Prerequisite)		
テキスト (Textbook)	No textbook is required. Students will be provided with materials by the teacher.	
参考文献 (References)		
備考 (Note)	定員 15 人	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

This course teaches students about using songs to improve listening skills and learn about pop culture music trends.

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

Students will be able to learn about collocations and improve vocabulary by listening to a selection of songs. Using music for English study assists learners with improved listening skills and presents interesting and relevant topics about life perfect for in-class discussions.

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

Students will be able to learn about collocations and improve vocabulary by listening to a selection of songs. Using music for English study assists learners with improved listening skills and presents interesting and relevant topics about life perfect for in-class discussions.

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

#### ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

Participation & class attitude 30%, homework assignments 40%, Final Projects 30%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction: General overview of the course. Introduction to global popular music trends.
- 第2回 Unit 1: Run the world / Beyonce
- 第3回 Unit 2: Marry the night / Lady Gaga
- 第4回 Unit 3: I used to wait / Arcade Fire
- 第5回 Unit 4: Jolene / Dolly Parton
- 第6回 Unit 5: Hurricane / Bob Dylan
- 第7回 Unit 6: Get up stand up / Bob Marley
- 第8回 Project Assignment #1: Favorite Song Discussion Activity
- 第9回 Unit 7: The Fear / Lilly Allen
- 第10回 Unit 8: I'm just a girl / No Doubt
- 第11回 Unit 9: Part of me / Katy Perry
- 第12回 Unit 10: Revolution / The Beatles
- 第13回 Unit 11: I want to break free / Queen
- 第14回 Unit 12: Respect / Aretha Franklin
- 第15回 Project Assignment #2: Favorite Video Discussion Activity

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

講義コード (Course Code)	EGB1302C0E
授業名 (Course Title)	Listening I C
N D 6 (Diploma Policy)	3 : 言語力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15 時間
担当者 (Instructor)	Katy Simpson
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	1 前
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『Inspire 2』 Hartmann, P., Douglas, N & Boon, ACengage/National Geographic Learning2014 Students will need to purchase the required textbook. Textbook is required for in-class discussions about Listening practices. The textbook will also be needed for homework due each week.
参考文献 (References)	
備考 (Note)	必修 クラス指定

1. 科目の教育目標 (Course Description)

Through various activities the students will develop their ability to listen to and understand English conversations that not only could occur in the events and activities of daily life, but also help promote development in becoming more intuitive global citizen learners.

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

The aim of this course is to help the students develop English listening skills that they will be able to use in their daily lives and help them understand the concept of becoming global citizens.

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

The aim of this course is to help the students develop English listening skills that they will be able to use in their daily lives and help them understand the concept of becoming global citizens.

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered listening course so students will be expected to put a lot of effort into speaking and listening in English with classmates regularly.

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

Participation & class attitude 30%, homework assignments 35%,

Listening Quizzes 20%, Final Project 15%

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction and Explanation of the Listening I Course with Requirements and Expectations.
- 第2回 Unit 1 - Food: Text Lesson B
- 第3回 Unit 2 - Festivals: Text Unit B
- 第4回 Units 1 & 2 Review / In-Class Listening Quiz #1
- 第5回 Unit 3 - Cities: Text Lesson B
- 第6回 Unit 4 - Jobs: Text Lesson B
- 第7回 Units 3 & 4 Review / In-Class Listening Quiz #2
- 第8回 Unit 5 - Music: Text Lesson B
- 第9回 Unit 6 - Journeys: Text Lesson B
- 第10回 Units 5 & 6 Review / In-Class Listening Quiz #3
- 第11回 Unit 7 - Family: Text Lesson B
- 第12回 Unit 8 - Nature: Text Lesson B
- 第13回 Final Projects Evaluation
- 第14回 Unit 9 - Happiness: Text Lesson B
- 第15回 Unit 10 - Conservation: Text Lesson B

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

講義コード (Course Code)	EGB1303C0E
授業名 (Course Title)	Speaking I C
N D 6 (Diploma Policy)	3 : 言語力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15 時間
担当者 (Instructor)	Katy Simpson
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	1 前
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『Inspire 2』 Hartmann, P., Douglas, N & Boon, ACengage/National Geographic Learning2014 Students will need to purchase the required textbook. Textbook is required for in-class discussions & speaking practice. The textbook will also be needed for homework due each week.
参考文献 (References)	
備考 (Note)	必修 クラス指定

1. 科目の教育目標 (Course Description)

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to speak English confidently. Additional focus will be on oral fluency skills for natural conversation.

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use in their daily lives. Students will also learn the relevance of discourse markers for oral fluency enhancement.

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use in their daily lives. Students will also learn the relevance of discourse markers for oral fluency enhancement.

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

Participation & class attitude 30%, homework assignments 40%, Final Project 30%

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction and Explanation of the Speaking I Course with Requirements and Expectations. General Introductions.
- 第2回 Unit 1 - Food: Text Lesson A
- 第3回 Unit 2 - Festivals: Text Lesson A
- 第4回 Oral Fluency Workshop: Discourse Markers Part 1
- 第5回 Unit 3 - Cities: Text Lesson A
- 第6回 Unit 4 - Jobs: Text Lesson A
- 第7回 Oral Fluency Workshop: Discourse Markers Part 2
- 第8回 Unit 5 - Music: Text Lesson A
- 第9回 Unit 6 - Journeys: Text Lesson A
- 第10回 Oral Fluency Workshop: Conversation Practice / Discourse Marker Practice
- 第11回 Unit 7 - Family: Text Lesson A
- 第12回 Unit 8 - Nature: Text Lesson A
- 第13回 Unit 9 - Happiness: Text Lesson A
- 第14回 Unit 10 - Conservation: Text Lesson A
- 第15回 Final Project Evaluation / In-Class Discussions

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.



講義コード (Course Code)	EGB1306N1E
授業名 (Course Title)	TOEFL I
N D 6 (Diploma Policy)	3 : 言語力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担当者 (Instructor)	Katy Simpson
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	1 前
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	No text required. Students will be provided with weekly printed materials.
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

The TOEFL is one of the two most widely used English exams around the world. This is the primary tool used by US universities and other academic institutions when assessing student's prior to acceptance. This course will aim to increase students' fluency while also increasing their TOEFL scores.

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

This course will familiarize students with the format of the TOEFL test. Students will learn strategies for categorizing and answering questions, effective time management, and knowledge of common vocabulary used in the TOEFL test.

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

This course will familiarize students with the format of the TOEFL test. Students will learn strategies for categorizing and answering questions, effective time management, and knowledge of common vocabulary used in the TOEFL test.

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students will take TOEFL practice tests as well as autonomous learning exercises in order to familiarize themselves with the test.

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

Participation 40%, Homework 30%, Tests and Quizzes 30%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 TOEFL Introduction
- 第2回 Practice Test
- 第3回 Reading Part 1: Factual and Negative Factual Questions; Vocabulary Questions
- 第4回 Reading Part 2: Inference Questions
- 第5回 Reading Part 3: Purpose, Method, and Opinion Questions
- 第6回 Listening Part 1: Main Topic and Main Purpose Questions
- 第7回 Listening Part 2: Factual, Negative Factual and Inference Questions
- 第8回 Listening Part 3: Purpose, Method, and Attitude Questions
- 第9回 Speaking Part 1: Independent Speaking Tasks - General Overview
- 第10回 Speaking Part 2: Independent Speaking Tasks - Personal Preference Task
- 第11回 Speaking Part 3: Independent Speaking Tasks - Paired Choice Task
- 第12回 Writing Part 1: Integrated Writing Task - General Overview
- 第13回 Writing Part 2: Integrated Writing Task - Taking Notes & Planning; Summarizing, Paraphrasing, & citing
- 第14回 Writing Part 3: Integrated Writing Task - Writing, Checking, Editing
- 第15回 Practice Test

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

講義コード (Course Code)	EGB1352C0E
授業名 (Course Title)	Listening II C
N D 6 (Diploma Policy)	3 : 言語力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15 時間
担当者 (Instructor)	Katy Simpson
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	1 後
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『Inspire 3』 Pamela Hartmann: Nancy Douglas; Andrew BoonCengage/National Geographic Learning2014 Students will need to purchase the required textbook. Textbook is required for in-class discussions & speaking practice. The textbook will also be needed for homework.
参考文献 (References)	
備考 (Note)	必修 クラス指定

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

Through various activities the students will develop their ability to listen to and understand English conversations that not only could occur in the events and activities of daily life, but also help promote development in becoming more intuitive global citizens.

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

The aim of this course is to help the students develop English listening skills that they will be able to use in their daily lives and help them understand the concept of becoming global citizens.

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

The aim of this course is to help the students develop English listening skills that they will be able to use in their daily lives and help them understand the concept of becoming global citizens.

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered listening course so students will be expected to put a lot of effort into speaking and listening in English with classmates regularly.

#### ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

Participation & class attitude 30%, homework assignments 35%, Listening Quizzes 20%, Final Project 15%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction and Explanation of the Listening I Course with Requirements and Expectations. General Introductions.
- 第2回 Unit 1: Friendship
- 第3回 Unit 2: Fears and phobias
- 第4回 Units 1 & 2 Review (Textbook Supplemental Video Activity) / Listening Quiz 1
- 第5回 Unit 3: Health myths or facts
- 第6回 Unit 4: Millennials / Disappearing cultures
- 第7回 Units 3 & 4 Review (Textbook Supplemental Video Activity) / Listening Quiz 2
- 第8回 Unit 5: Failure: What can we learn from it?
- 第9回 Unit 6: Consumerism
- 第10回 Units 5 & 6 Review (Textbook Supplemental Video Activity) / Listening Quiz 3
- 第11回 Unit 7: Modern art / Street art
- 第12回 Unit 8: Collaboration for success
- 第13回 Final Projects Evaluation
- 第14回 Unit 9: Crisis survival
- 第15回 Unit 10: Technological advances

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

講義コード (Course Code)	EGB1353C0E
授業名 (Course Title)	Speaking II C
N D 6 (Diploma Policy)	3 : 言語力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15 時間
担当者 (Instructor)	Katy Simpson
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	1 後
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『Inspire 3』 Pamela Hartmann; Nancy Douglas; Andrew BoonCengage/National Geographic Learning2014 Students will need to purchase the required textbook. Textbook is required for in-class discussions & speaking practice. The textbook will also be needed for homework.
参考文献 (References)	
備考 (Note)	必修 クラス指定

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to speak English confidently. Additional focus will be on oral fluency skills for natural conversation.

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use in their daily lives. Students will also learn additional oral fluency enhancement skills.

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use in their daily lives. Students will also learn additional oral fluency enhancement skills.

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
15 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

Participation & class attitude 30%, homework assignments 20%, Graded Oral Discussions 20%, Final Project 30%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction and Explanation of the Speaking II Course with Requirements and Expectations. General Introductions.
- 第2回 Unit 1: Social networking / Describing similarities & differences
- 第3回 Unit 2: Talking about fears / Making suggestions
- 第4回 Units 1 & 2 Graded Oral Discussions
- 第5回 Unit 3: Talking about illness / Debating and disagreeing
- 第6回 Unit 4: Talking about change and consequences
- 第7回 Units 3 & 4 Graded Oral Discussions
- 第8回 Unit 5: Talking about goals and success / Explaining results
- 第9回 Unit 6: Talking about spending habits / Passive voice
- 第10回 Units 5 & 6 Graded Oral Discussions
- 第11回 Unit 7: Talking about art / Explaining preferences and descriptions
- 第12回 Unit 8: Asking for assistance / Persuading and negotiating
- 第13回 Unit 9: Survival stories / Narrating techniques
- 第14回 Unit 10: Talking about innovations / Giving reasons
- 第15回 Final Projects Evaluation / In-class Graded Discussions

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

講義コード (Course Code)	EGB1356N1E
授業名 (Course Title)	TOEFL II
N D 6 (Diploma Policy)	3 : 言語力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担当者 (Instructor)	Katy Simpson
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	1 後
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	No text required. Students will be provided with weekly printed materials.
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

The TOEFL is one of the two most widely used English exams around the world. This is the primary tool used by US universities and other academic institutions when assessing student's prior to acceptance. This course will aim to increase students' fluency while also increasing their TOEFL scores.

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

This course will familiarize students the format of the TOEFL test. Students will learn strategies for categorizing and answering questions, effective time management, and knowledge of common vocabulary used in the TOEFL test.

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

This course will familiarize students the format of the TOEFL test. Students will learn strategies for categorizing and answering questions, effective time management, and knowledge of common vocabulary used in the TOEFL test.

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students will take TOEFL practice tests as well as autonomous learning exercises in order to familiarize themselves with the test.

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
15 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

Participation 40%, Homework 30%, Tests and Quizzes 30%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction to TOEFL
- 第2回 TOEFL Practice Test
- 第3回 Reading Part 1: Sentence Restatement Questions
- 第4回 Reading Part 2: Reference Questions
- 第5回 Reading Part 3: Sentence Addition Questions; Completing Summaries & Charts
- 第6回 Listening Part 1: Replay Questions
- 第7回 Listening Part 2: Ordering & Matching Questions
- 第8回 Listening Part 3: Completing Charts
- 第9回 Speaking Part 1: Integrated Speaking Tasks - General Overview
- 第10回 Speaking Part 2: Integrated Speaking Tasks - Announcement/Discussion Task; General/Specific Task
- 第11回 Speaking Part 3: Integrated Speaking Tasks - Problem/Solution Task; Summary Task
- 第12回 Writing Part 1: Independent Writing Task - General Overview; Pre-Writing
- 第13回 Writing Part 2: Independent Writing Task - Giving Opinions & Connecting Ideas; Writing the 1st Draft
- 第14回 Writing Part 3: Independent Writing Task - Checking & Editing
- 第15回 Practice Test

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

講義コード (Course Code)	EGB2302COE
授業名 (Course Title)	Advanced Listening I C
N D 6 (Diploma Policy)	3 : 言語力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15 時間
担当者 (Instructor)	Katy Simpson
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	2 前
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『Pathways 1 Listening, Speaking and Critical Thinking (2nd Edition)』 Becky Traver Chase, Christien Lee, Paul MacIntyre, Kathy Najafi, and Cyndy FettiGengage/National Geographic Learning2018 Students will need to purchase the required textbook. Textbook is required for in-class discussions & listening practice. The textbook will also be needed for online homework due each week.
参考文献 (References)	
備考 (Note)	必修 クラス指定

講義コード (Course Code)	EGB2303COE
授業名 (Course Title)	Advanced Speaking I C
N D 6 (Diploma Policy)	3 : 言語力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15 時間
担当者 (Instructor)	Katy Simpson
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	2 前
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『Pathways 1 Listening, Speaking and Critical Thinking (2nd Edition)』 Becky Traver Chase, Christien Lee, Paul MacIntyre, Kathy Najafi, and Cyndy FettiGengage/National Geographic Learning2018 Students will need to purchase the required textbook. Textbook is required for in-class discussions & speaking practice. The textbook will also be needed for access to online homework due each week.
参考文献 (References)	
備考 (Note)	必修 クラス指定

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

Through various activities the students will develop their ability to listen to and understand English conversations that not only could occur in the events and activities of daily life, but also help promote development in becoming more intuitive global citizen learners.

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

The aim of this course is to help the students develop English listening skills that they will be able to use in their daily lives and help them understand the concept of becoming global citizens.

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

The aim of this course is to help the students develop English listening skills that they will be able to use in their daily lives and help them understand the concept of becoming global citizens.

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered listening course so students will be expected to put a lot of effort into speaking and listening in English with classmates regularly.

#### ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

Participation & class attitude 30%, online homework 10%, class assignments 30%, Listening Quizzes 30%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction and Explanation of the Advanced Listening I C Course with Requirements and Expectations. General Introductions
- 第2回 Unit 1: Living for Work - Text Lesson B Part 1
- 第3回 Unit 1: Living for Work - Text Lesson B Part 2
- 第4回 Unit 1: Living for Work - Text Lesson B Part 3 / Unit 1 Listening Quiz
- 第5回 Unit 2: Good Times, Good Feelings - Text Lesson B Part 1
- 第6回 Unit 2: Good Times, Good Feelings - Text Lesson B Part 2
- 第7回 Unit 2: Good Times, Good Feelings - Text Lesson B Part 3 / Unit 2 Listening Quiz
- 第8回 Unit 3: The Marketing Machine - Text Lesson B Part 1
- 第9回 Unit 3: The Marketing Machine - Text Lesson B Part 2
- 第10回 Unit 3: The Marketing Machine - Text Lesson B Part 3 / Unit 3 Listening Quiz
- 第11回 Unit 4: Wild Weather - Text Lesson B Part 1
- 第12回 Unit 4: Wild Weather - Text Lesson B Part 2 / Unit 4 Listening Quiz
- 第13回 Unit 5: Focus on Food - Text Lesson B Part 1
- 第14回 Unit 5: Focus on Food - Text Lesson B Part 2 / Unit 5 Listening Quiz
- 第15回 Final Class Discussions / Final Review Units 1 - 5 Listening Quiz

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to speak English confidently. Additional focus will be on oral fluency skills for natural conversation.

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use in their daily lives. Students will also learn the relevance of discourse markers for oral fluency enhancement.

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use in their daily lives. Students will also learn the relevance of discourse markers for oral fluency enhancement.

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

#### ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

Participation & class attitude 30%, online homework 10%, class assignments 40%, Final Project 20%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction and Explanation of the Advanced Speaking I Course with Requirements and Expectations. General Introductions.
- 第2回 Unit 1: Living for Work - Text Lesson A Part 1
- 第3回 Unit 1: Living for Work - Text Lesson A Part 2
- 第4回 Oral Fluency Workshop: An introduction to Discourse Markers
- 第5回 Unit 2: Good Times, Good Feelings - Text Lesson A Part 1
- 第6回 Unit 2: Good Times, Good Feelings - Text Lesson A Part 2
- 第7回 Oral Fluency Workshop: Discourse Markers Part 2
- 第8回 Unit 3: The Marketing Machine - Text Lesson A Part 1
- 第9回 Unit 3: The Marketing Machine - Text Lesson A Part 1
- 第10回 Oral Fluency Workshop: Video Project Mini-presentation / discussions
- 第11回 Unit 4: Wild Weather - Text Lesson A Part 1
- 第12回 Unit 4: Wild Weather - Text Lesson A Part 2
- 第13回 Unit 5: Focus on Food - Text Lesson A Part 1
- 第14回 Unit 5: Focus on Food - Text Lesson A Part 2
- 第15回 Final Project Evaluations / In-class graded discussions

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

講義コード (Course Code)	EGB2352COE
授業名 (Course Title)	Advanced Listening II C
N D 6 (Diploma Policy)	3 : 言語力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15 時間
担当者 (Instructor)	Katy Simpson
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	2 後
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『Pathways 1 Listening, Speaking and Critical Thinking (2nd Edition)』 Becky Traver Chase, Christien Lee, Paul MacIntyre, Kathy Najafi, and Cyndy FettiGengage/National Geographic Learning2018 Students will need to purchase the required textbook. Textbook is required for in-class discussions & listening practice. The textbook will also be needed for online homework due each week.
参考文献 (References)	
備考 (Note)	必修 クラス指定

講義コード (Course Code)	EGB2353COE
授業名 (Course Title)	Advanced Speaking II C
N D 6 (Diploma Policy)	3 : 言語力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15 時間
担当者 (Instructor)	Katy Simpson
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	2 後
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『Pathways 1 Listening, Speaking and Critical Thinking (2nd Edition)』 Becky Traver Chase, Christien Lee, Paul MacIntyre, Kathy Najafi, and Cyndy FettiGengage/National Geographic Learning2018 Students will need to purchase the required textbook. Textbook is required for in-class discussions & speaking practice. The textbook will also be needed for online homework due each week.
参考文献 (References)	
備考 (Note)	必修 クラス指定

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

Through various activities the students will develop their ability to listen to and understand English conversations that not only could occur in the events and activities of daily life, but also help promote development in becoming more intuitive globally conscious learners.

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

The aim of this course is to help the students develop English listening skills that they will be able to use in their daily lives and help them understand the concept of becoming global citizens.

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

The aim of this course is to help the students develop English listening skills that they will be able to use in their daily lives and help them understand the concept of becoming global citizens.

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered listening course so students will be expected to put a lot of effort into speaking and listening in English with classmates regularly.

#### ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

Participation & class attitude 30%, online homework 10%, class assignments 30%, Listening Quizzes 30%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction and Explanation of the Advanced Listening II C Course with Requirements and Expectations. General Introductions
- 第2回 Unit 6: Housing for the Future - Text Lesson B Part 1
- 第3回 Unit 6: Housing for the Future - Text Lesson B Part 2
- 第4回 Unit 6: Housing for the Future - Text Lesson B Part 3 / Unit 6 Listening Quiz
- 第5回 Unit 7: Exploring Space - Text Lesson B Part 1
- 第6回 Unit 7: Exploring Space - Text Lesson B Part 2
- 第7回 Unit 7: Exploring Space - Text Lesson B Part 3 / Unit 7 Listening Quiz
- 第8回 Unit 8: Creative Arts - Text Lesson B Part 1
- 第9回 Unit 8: Creative Arts - Text Lesson B Part 2
- 第10回 Unit 8: Creative Arts - Text Lesson B Part 3 / Unit 8 Listening Quiz
- 第11回 Unit 9: Our Relationship with Nature - Text Lesson B Part 1
- 第12回 Unit 9: Our Relationship with Nature - Text Lesson B Part 2 / Unit 9 Listening Quiz
- 第13回 Unit 10: How we Communicate - Text Lesson B Part 1
- 第14回 Unit 10: How we Communicate - Text Lesson B Part 2 / Unit 10 Listening Quiz
- 第15回 Final Class Discussions / Final Review Units 6 - 10 Listening Quiz

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to speak English confidently. Additional focus will be on oral fluency skills for natural conversation.

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use in their daily lives. Students will also learn about become global citizens able to contribute to conversations critically.

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use in their daily lives. Students will also learn about become global citizens able to contribute to conversations critically.

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

#### ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

Participation & class attitude 30%, homework assignments 40%, Final Project 30%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction and Explanation of the Advanced Speaking II Course with Requirements and Expectations. General Introductions.
- 第2回 Unit 6: Housing for the Future - Text Lesson A Part 1
- 第3回 Unit 6: Housing for the Future - Text Lesson A Part 2
- 第4回 Unit 6: Housing for the Future - Text Lesson A Part 3 / In-class Mini-Presentations
- 第5回 Unit 7: Exploring Space - Text Lesson A Part 1
- 第6回 Unit 7: Exploring Space - Text Lesson A Part 2
- 第7回 Unit 7: Exploring Space - Text Lesson A Part 3 / In-class Mini-Presentations
- 第8回 Unit 8: Creative Arts - Text Lesson A Part 1
- 第9回 Unit 8: Creative Arts - Text Lesson A Part 2
- 第10回 Unit 8: Creative Arts - Text Lesson A Part 3 / In-Class Mini Presentations
- 第11回 Unit 9: Our Relationship with Nature - Text Lesson A Part 1
- 第12回 Unit 9: Our Relationship with Nature - Text Lesson A Part 2
- 第13回 Unit 10: How we Communicate - Text Lesson A Part 1
- 第14回 Unit 10: How we Communicate - Text Lesson A Part 2
- 第15回 Final Project Evaluations / In-class final discussions.

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

講義コード (Course Code)	EGE2201NOE
授業名 (Course Title)	Popular Culture
N D 6 (Diploma Policy)	2 : 知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担当者 (Instructor)	Katy Simpson
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	2・3・4 前
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	No textbook required. Students will be given materials needed by the instructor.
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

This course is designed to teach students about various current and past popular culture trends in television, cinema, music, fashion, sports, and more. Focus will primarily be on North America, The UK, Australia, and Japan. This is a lecture style course that also tends to be student focused. There will be lots of interaction and discussions between classmates.

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

This course will allow students to prepare for being able to discuss popular culture trends while traveling or studying abroad. Through lectures, and discussion activities, students will be able to improve casual communication skills and oral fluency.

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

This course will allow students to prepare for being able to discuss popular culture trends while traveling or studying abroad. Through lectures, and discussion activities, students will be able to improve casual communication skills and oral fluency.

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. Students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
15 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

Homework & Classwork 20%, Quizzes 20%, In-class participation, effort, & attitude 30%, Final Project 30%

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction: From street to tweet. An introduction to pop culture
- 第2回 Section 1: Comedy in TV series and movies
- 第3回 Section 1: Stand-up comedy
- 第4回 Section 1: Musical comedy
- 第5回 Section 2: Madonna, Beyonce, and Taylor Swift
- 第6回 Section 2: Electronic music and the Japanese techno scene
- 第7回 Section 2: Movie soundtracks
- 第8回 Section 3: Bollywood
- 第9回 Section 3: Celebrity activism
- 第10回 Section 3: Oprah Winfrey and the world of wellness
- 第11回 Section 4: Fashion and Coco Chanel
- 第12回 Section 4: Fashion magazines and advertising
- 第13回 Section 5: #geekgirls and Comic Con
- 第14回 Section 6: Video games, anime, and manga
- 第15回 Final Projects

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

講義コード (Course Code)	CSA2258N1J
授業名 (Course Title)	古文書読解
N D 6 (Diploma Policy)	2 : 知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担当者 (Instructor)	武田 美桜
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	2・3・4 後
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	テキストは使用しません。プリントを適宜授業内に配布します。
参考文献 (References)	『古文書学入門』佐藤進一法政大学出版局 2003 『概説古文書学古代中世編』日本歴史学会吉川弘文館 2003 『概説古文書学近世編』日本歴史学会吉川弘文館 2003 児玉幸多編 くずし字用例辞典 東京堂出版 1993 ISBN 9784490103335 児玉幸多編 くずし字解読辞典 東京堂出版 1993 ISBN 9784490103311 小川環樹・西田太郎・赤塚忠編 角川新字源 角川書店 1994 ISBN 4040108043 小学館国語辞典編集部編集 日本国語大辞典 小学館 2006 ISBN 4095210230
備考 (Note)	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

古文書に初めて接するという方がほとんどだと思います。この古文書を読みこなすには、それなりの時間がかかります。本講義では、まず古文書に慣れてもらうことに比重を置きつつ、古文書の基礎知識と読解の基礎技術を身に付けてもらいます。読み方のみではなく翻刻の技術も学びます。また現物にも触れてもらい、古文書の取り扱いなども学んでもらいます。

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

古文書に慣れてもらうことを基本とします。それに基づき近世文献の読解力を高めていきます。本講座を通じて、文化遺産としての古文書、そして古文書が歴史や地元地域史を明らかにできる価値を有する点を理解してもらいます。学芸員資格取得の方は特に学んでおいてほしいと考えます。

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

古文書に慣れてもらうことを基本とします。それに基づき近世文献の読解力を高めていきます。本講座を通じて、文化遺産としての古文書、そして古文書が歴史や地元地域史を明らかにできる価値を有する点を理解してもらいます。学芸員資格取得の方は特に学んでおいてほしいと考えます。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

本講義は、現在あまり使われない漢字やひらがなやなど、くずし字の読みを対象とするので、語学の1つとして理解してください。したがって読み続ける努力が大事です。読む時は音読で行ってください。くずし字に慣れるには、日記など継続する文章やそこに記されるくずし字を読み続けることが、効果を上げる方法です。したがって学んだことを繰り返し反復しておいてください。先にテキストを配布するので、くずし字辞典や漢和辞典(新字源)・国語辞典(日本国語大辞典)などで、テキストの意味・文言ほかを調べ、授業前にテキストの文書を解読しておいてください。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

1. 評価は、総括テストまたはレポート (人数による) で行います。原則的にテストの点数で単位認定を行います。
2. 講義3分の2以上の出席をテスト (レポート) の参加 (提出) 資格とします。
3. 毎講義時に提出してもらった当該講義の意見の記述や課題は、特に必要と判断される場合に評価の参考とします。たとえば、病気など不可避な理由でテストを欠席した場合、評価は上記提出の意見や課題を基に行います。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 史料論概説 古文書の扱いについて
- 第2回 古文書の形を知る 折封・捻封・結封・折紙
- 第3回 古文書を読むときの基礎知識 本紙・札紙・封紙
- 第4回 古文書に慣れる (1) 書状・奉書
- 第5回 古文書に慣れる (2) 御教書
- 第6回 くずし字に慣れる (1) 判物・朱印状
- 第7回 くずし字に慣れる (2) 起請文・書状
- 第8回 くずし字に慣れる (3) 証文・手形
- 第9回 有名人の古文書 (1) 織田信長の手紙
- 第10回 有名人の古文書 (2) 武田信玄の手紙
- 第11回 有名人の古文書 (3) 豊臣秀吉の手紙
- 第12回 有名人の古文書 (4) 徳川家康の手紙
- 第13回 現物の古文書に触れる (1) 文書の扱いを学ぶ
- 第14回 現物の古文書に触れる (2) 読んでみる

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

本講義は、現在あまり使われなく、ずし字や文章表現の読みを対象とするので、語学の1つとして理解してください。したがって読み続け慣れることが大事です。

授業予定については、進捗状況等に応じて順序の入れ替え等の変更を行う場合があります。

講義コード (Course Code)	SWA2200N1J
授業名 (Course Title)	社会保障論 I
N D 6 (Diploma Policy)	2: 知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担当者 (Instructor)	柴田 周二
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	2 前
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	特になし。プリントを配布する。
参考文献 (References)	『社会保障・社会福祉』福田素生医学書院 2018 『家族の条件—豊かさのなかの孤独—』春日キスヨ岩波現代文庫 2018 『体験ルポ 世界の高齢者福祉』山井和則岩波新書 2018 授業の中で適宜紹介する。
備考 (Note)	

1. 科目の教育目標 (Course Description)

20 世紀以降、社会保障は人々の生活に欠かせないものとなった。本講義では現代社会における社会保障の存在意義、理念、歴史、制度の概略など社会保障の基礎を学ぶ。具体的には少子高齢化が急速に進むわが国における社会保障制度を中心に、社会保障の理念、対象、課題を確認し、欧米を含む社会保障の展開過程を学ぶ。かかる基礎知識を身につけた上で、社会保障の財源及び社会保障を構成する制度群を社会保険と社会扶助の二つに分けて理解を深める。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- ①現代社会における社会保障制度の役割を理解する。
- ②社会保障制度の理念と歴史を理解する。
- ③社会保障の財源と費用を理解する。
- ④社会保険と社会扶助の関係を理解する。
- ⑤日本の社会保障制度の概略を理解する。

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

- ①現代社会における社会保障制度の役割を理解する。
- ②社会保障制度の理念と歴史を理解する。
- ③社会保障の財源と費用を理解する。
- ④社会保険と社会扶助の関係を理解する。
- ⑤日本の社会保障制度の概略を理解する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

新聞やテレビなどのニュースに関心をもち、授業中に紹介する参考文献も読んでみる。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

評価は、平常点 (15 点)、小テスト (15 点)、定期試験 (70 点) とする。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 くらしと社会保障
- 第3回 西洋の社会保障の歴史
- 第4回 日本の社会保障の歴史
- 第5回 社会保障の理念
- 第6回 社会保障の概念と範囲
- 第7回 社会保障の財源と費用
- 第8回 社会保障の機能
- 第9回 現代社会における社会保障の課題
- 第10回 小テスト
- 第11回 日本の社会保障制度の体系
- 第12回 社会保険の概念と制度
- 第13回 社会扶助の概念と制度
- 第14回 社会保険と民間保険
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

実施する・持込不可

7. 留意事項 (Other Information)

講義の都合上、シラバスの一部変更もありうる。

講義コード (Course Code)	SWA2450N1J
授業名 (Course Title)	社会保障論 II
N D 6 (Diploma Policy)	4: 思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担当者 (Instructor)	柴田 周二
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	2 後
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	特になし。プリントを配布する。
参考文献 (References)	『社会保障・社会福祉』福田素生医学書院 2018 『家族の条件—豊かさのなかの孤独—』春日キスヨ岩波現代文庫 2018 『体験ルポ 世界の高齢者福祉』山井和則岩波新書 2018 授業の中で適宜紹介する。
備考 (Note)	

1. 科目の教育目標 (Course Description)

本講義では社会保障 I で学んだ社会保障の基礎的理解に立って、社会保障を構成する各制度を具体的に学ぶことを主たる目的とする。まずは複雑に分立したわが国の社会保障制度を鳥瞰しながらその全体像を把握する。そして社会保障の支柱である社会保険の原理を理解した上で、年金保険、医療保険、介護保険、雇用保険、労災保険の詳細を学ぶ。さらに公的扶助、福祉サービスを概観し、最後に欧米の社会保障と比較しながら、わが国の社会保障の特質について理解する。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- ①年金保険と医療保険の仕組みを理解する。
- ②雇用保険、労災保険、介護保険の仕組みを理解する。
- ③生活保護制度の内容と問題を理解する。
- ④社会手当と社会福祉の概要を理解する。
- ⑤諸外国の社会保障制度の概要を理解する。

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

- ①年金保険と医療保険の仕組みを理解する。
- ②雇用保険、労災保険、介護保険の仕組みを理解する。
- ③生活保護制度の内容と問題を理解する。
- ④社会手当と社会福祉の概要を理解する。
- ⑤諸外国の社会保障制度の概要を理解する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

新聞やテレビなどのニュースに関心をもち、授業中に紹介する参考文献も読んでみる。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

評価は、平常点 (15 点)、小テスト (15 点)、定期試験 (70 点) とする。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 年金保険① (制度の概略)
- 第3回 年金保険② (国民年金)
- 第4回 年金保険③ (厚生年金)
- 第5回 医療保険① (制度の概略)
- 第6回 医療保険② (保険給付)
- 第7回 介護保険 (制度の概略と保険給付)
- 第8回 雇用保険 (制度の概略と保険給付)
- 第9回 労働者災害補償保険 (制度の概略と保険給付)
- 第10回 生活保護 (制度の概略と扶助の種類)
- 第11回 社会手当 (児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当)
- 第12回 社会福祉 (高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉)
- 第13回 諸外国の社会保障制度
- 第14回 日本の社会保障制度の課題
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

実施する・持込不可

7. 留意事項 (Other Information)

授業の都合上、シラバスを一部変更することもありうる。

講義コード (Course Code)	PSA1551N1J
授業名 (Course Title)	社会・集団・家族心理学 I (社会・集団)
N D 6 (Diploma Policy)	5 : 共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担当者 (Instructor)	後藤 伸彦
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	1 後
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

社会で生きていく上で、他者と上手に付き合ったり、仲良くなることは重要なことです。しかし世の中にはさまざまな物の見方 (バイアスや偏見) が存在し、それらが他者との関係に悪く影響することはしばしばあります。ではどのような文脈の時に、そういったバイアスや偏見が人の感情や認知や態度、判断や行動に影響するのでしょうか。

本科目では、人が様々なバイアスや文脈 (社会) からの影響を受けて考え、悩み、ときに間違え、判断し、行動しているかを理解することを目指します。更にそういった人の判断や行動が個人内で完結せず他者や社会に影響を与えていることを理解することを目指します。それによってさまざまな人々と共生・協働する力を身につけることを目指します。

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- 1.人の「癖」(認知過程)や「間違い」(バイアスや推論)が態度や対人関係に与える影響を理解する
- 2.集団間関係(差別やヘイトスピーチ等)について現実の問題に即して考える
- 3.自己の多層性(個人としての自分、友人といふときの自分、日本人としての自分等)について理解する
- 4.文化と心理の関係を理解し、異文化のヒトとの共生・協働について考える
- 5.社会心理学の応用可能性について考える

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

- 1.人の「癖」(認知過程)や「間違い」(バイアスや推論)が態度や対人関係に与える影響を理解する
- 2.集団間関係(差別やヘイトスピーチ等)について現実の問題に即して考える
- 3.自己の多層性(個人としての自分、友人といふときの自分、日本人としての自分等)について理解する
- 4.文化と心理の関係を理解し、異文化のヒトとの共生・協働について考える
- 5.社会心理学の応用可能性について考える

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- ・前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 30 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)  
試験 (90%)、授業参加 (10%) を総合して評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 自己認知：自分の心を理解する
- 第2回 対人認知：人の心は読めるのか
- 第3回 社会的推論とバイアス
- 第4回 帰属過程
- 第5回 ステレオタイプ・態度・差別行動
- 第6回 集団間関係
- 第7回 社会的自己の幅広い影響
- 第8回 自己表現とファッションの心
- 第9回 消費行動と環境行動
- 第10回 群知能：昆虫から学ぶ知能と意思決定
- 第11回 インターネットの影響
- 第12回 職場のモチベーション
- 第13回 対人ストレス・健康・幸福
- 第14回 文化の違いとその影響
- 第15回 試験とまとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

講義コード (Course Code)	PSA2203N1J
授業名 (Course Title)	消費者行動の心理学
N D 6 (Diploma Policy)	2 : 知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担当者 (Instructor)	後藤 伸彦
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	2・3 前
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

モノであれ、コト (サービス) であれ、消費行動は我々人間がほぼ毎日、頻繁に行っている行動である。にも関わらず、その行動の理由については、自覚的であるとは限らない。本科目では自分の好きなモノや世間で流行っている事柄について心理学的考察を深め、それらが消費される理由について考える。

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 人の持つ基本的な欲求について説明できる
2. 世間で受け入れられているものについて、心理学の用語を用いて自分なりに説明できる
3. 心理学の知識を用いて商品の販促が出来る

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 人の持つ基本的な欲求について説明できる
2. 世間で受け入れられているものについて、心理学の用語を用いて自分なりに説明できる
3. 心理学の知識を用いて商品の販促が出来る

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 授業の中でさまざまな商品や芸能人についてディスカッションを行うので、自分の好きなモノやヒトについて話をできるように準備しておく
  2. 講義の内容をよく復習し、ディスカッションや発表で使えるように理解を深める
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 30 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)  
授業内発表 (20%) x2、授業参加(20%)、期末テスト(40%)

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション：「消費」について
- 第2回 消費と幸/不幸について (1) 食の消費
- 第3回 消費と幸/不幸について (2) 衣服を消費する
- 第4回 知覚と注意
- 第5回 記憶・学習
- 第6回 動機/欲求
- 第7回 自己・アイデンティティー
- 第8回 態度
- 第9回 中間プレゼンテーション発表
- 第10回 広告
- 第11回 期末プレゼンテーション発表準備
- 第12回 アンビエント (空間・音楽)
- 第13回 消費と神経科学
- 第14回 期末プレゼンテーション発表
- 第15回 まとめとテスト

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

講義コード (Course Code)	PSA2500N1J
授 業 名 (Course Title)	対人関係論
N D 6 (Diploma Policy)	5 : 共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担 当 者 (Instructor)	後藤 伸彦
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	2・3 前
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	定員 150 人

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

本科目では、対人関係、特に自己と他者との二者関係において生じる諸事象を、社会心理学の立場から論じる。

家族、恋愛、友人関係など、様々な対人関係における事象や研究事例を学び、その背後にあるメカニズムについて考察する。具体的には、なぜ人は他者を愛したり、助けたり、傷つけたりするのかについての社会心理学的、進化心理学的説明を学び、二者関係における対人行動のメカニズムを理解することを目指す。

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 社会的相互作用における対人認知と対人行動のメカニズムを理解する。
2. 親子関係、恋愛関係、友人関係の違いについて理解する。
3. 自己に対する認知と評価のあり方について考える。
4. 人を批判したりゆるしたりする心理について理解する。
5. 他者から援助を受けたり他者に援助を与える際に伴う困難さについて理解する。

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 社会的相互作用における対人認知と対人行動のメカニズムを理解する。
2. 親子関係、恋愛関係、友人関係の違いについて理解する。
3. 自己に対する認知と評価のあり方について考える。
4. 人を批判したりゆるしたりする心理について理解する。
5. 他者から援助を受けたり他者に援助を与える際に伴う困難さについて理解する。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

試験 (90%)、授業参加 (10%) を総合して評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 対人関係と人間関係
- 第2回 対人認知 (1) 印象形成
- 第3回 対人認知 (2) 対人情報処理
- 第4回 対人魅力
- 第5回 対人コミュニケーション
- 第6回 親子関係
- 第7回 友人関係
- 第8回 恋愛関係
- 第9回 原因帰属と感情
- 第10回 加害と謝罪
- 第11回 対人関係における自己 (1) 自己とは、自己概念
- 第12回 対人関係における自己 (2) 自己評価
- 第13回 援助行動
- 第14回 対人ストレス
- 第15回 試験とまとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

講義コード (Course Code)	PSB1250N0J
授 業 名 (Course Title)	行動科学概論
N D 6 (Diploma Policy)	2 : 知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担 当 者 (Instructor)	後藤 伸彦
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	1 後
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

行動科学とは、人間や動物の行動を科学的に分析し、行動の諸現象を理解し、行動の諸問題を解決することを目指した科学である。本科目は、人間および動物の行動についての (心理学を含む) 様々な分野の研究を紹介し、行動の基礎にある原理の科学的な理解を深めることを目的とする。

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 人は、周囲の環境をどのように知覚・認知しているのか。
2. 人は、社会的な環境の中でどのように行動しているのか。
3. 人は、どのように選択・意思決定するのか。

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 人は、周囲の環境をどのように知覚・認知しているのか。
2. 人は、社会的な環境の中でどのように行動しているのか。
3. 人は、どのように選択・意思決定するのか。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

前回の授業をよく復習し、わからない所があれば質問できるようにしておく。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

定期テストは行わず、課題提出(100%)に基づき評価を行う。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 知覚
- 第3回 認知
- 第4回 記憶と学習
- 第5回 動機と行動
- 第6回 ヒューマンエラー
- 第7回 社会性動物
- 第8回 比較行動学
- 第9回 言語
- 第10回 非言語行動
- 第11回 対人行動
- 第12回 集団行動
- 第13回 意思決定
- 第14回 消費行動
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。



講義コード (Course Code)	EDN2251N0J
授業名 (Course Title)	教育の方法と技術
N D 6 (Diploma Policy)	2: 知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担当者 (Instructor)	神月 紀輔
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	2 後
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『小学校学習指導要領』文部科学省東京書籍 2008
参考文献 (References)	授業中にその都度提示します
備考 (Note)	必修

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

幼稚園、小学校の各発達段階において、望ましい教育方法を探求し、その実践を行えるようにする。具体的には、主体的な学びの創造、情報活用能力の育成、アクティブラーニング、社会的構成主義学習理論に基づくコミュニケーションを生かした教育方法等である。

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

下記の3項目について、理解した上で、その実践的指導を学校教育の指導の中で行えるようにする。・思考力、想像力を育む児童生徒の主体的な学習活動・情報活用の実践力を育む授業実践方法・社会的構成主義学習理論に基づく、コミュニケーションを生かした授業づくり

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

下記の3項目について、理解した上で、その実践的指導を学校教育の指導の中で行えるようにする。・思考力、想像力を育む児童生徒の主体的な学習活動・情報活用の実践力を育む授業実践方法・社会的構成主義学習理論に基づく、コミュニケーションを生かした授業づくり

### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業内で話し合う機会が多いので、教員が提示する各トピックに対して準備を行う必要がある。

### ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

基本的には下記の項目について、自己評価を取り入れる。

授業に参加する態度 (40%) 各個人の状況に応じて、出席したかどうかでなく、授業中の態度も含めて、最終授業時に40点満点で自己採点を行う。

レポート (40%) 3回提出の予定である。その都度、教員からレポート内容についての評価項目を示すので、それに従って自己評価を行う。

グループへの参加態度 (20%) 最終授業時に行うグループ内相互評価のもとに、教員の示す評価基準で自己採点を行う。

上記の自己採点を基本とし、教員が総合的に判断し、評価を行う

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 教育とは
- 第3回 学習理論とは
- 第4回 主体的な学び、アクティブラーニングとは
- 第5回 主体的な学びを促進する授業の設計 (グループディスカッション)
- 第6回 主体的な学びを促進する授業の相互評価 (グループディスカッション)
- 第7回 主体的な学びを促進する教師の役割 (パネル発表)
- 第8回 情報教育の目標と情報活用能力
- 第9回 情報活用能力の育成 (グループディスカッション)
- 第10回 情報活用の実践力を育てる授業設計 (グループディスカッション)
- 第11回 情報活用の実践力を育てる授業の相互評価 (パネル発表)
- 第12回 コミュニケーションを生かした授業
- 第13回 コミュニケーションを生かした授業の実践1 (グループディスカッション)
- 第14回 コミュニケーションを生かした授業の実践2 (パネル発表)
- 第15回 理想の教育方法とは (グループディスカッション)

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

自ら進んで学ぶ態度が必要になります。

講義コード (Course Code)	EDP2450N0J
授業名 (Course Title)	音楽科指導法
N D 6 (Diploma Policy)	4: 思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担当者 (Instructor)	古庵 晶子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	2 後
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『小学校学習指導要領解説 音楽編』文部科学省東洋館出版社 2018 『はじめて学ぶ教科教育「初等音楽科」』吉田武男監修ミネルヴァ書房 2018 適宜プリント配布
参考文献 (References)	
備考 (Note)	幼小・小特必修

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

小学校音楽科の理念と目標を踏まえつつ、隣接校種の連携 (幼小および小中) を考慮し、音楽教育を幅広く捉えることができる。表現・音楽づくり・鑑賞の各領域の授業プランを構想することができる。既製楽譜での共通教材の弾き歌いができる。パロッド式リコーダーの利点を理解し、演奏できるようにする。

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 学習指導要領について理解する。
2. 学習指導案を作成し、ピアノ伴奏を取り入れた模擬授業をする。
3. パロッド式リコーダーに対する苦手意識を払しょくする。
4. 手作り楽器製作を行い、幼小連携および小中連携に音楽科が貢献できる内容を模索する。

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 学習指導要領について理解する。
2. 学習指導案を作成し、ピアノ伴奏を取り入れた模擬授業をする。
3. パロッド式リコーダーに対する苦手意識を払しょくする。
4. 手作り楽器製作を行い、幼小連携および小中連携に音楽科が貢献できる内容を模索する。

### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

リコーダーとピアノは毎日の積み重ねが不可欠なため、練習を怠らないこと。手作り楽器製作のため、廃材の準備をしておくこと。

### ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

授業参加度 10% 模擬授業と音楽づくり 30% 学習指導案 20% リコーダーのテスト 20% ピアノ伴奏 20% 授業に関連のない目的での携帯電話使用等は減点の対象とする。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 音楽教育の歴史と小学校学習指導要領 (音楽) の概説 リコーダーの種類とパロッド式リコーダー
- 第2回 歌唱指導の研究と演習 手づくり楽器の教育的意義
- 第3回 鑑賞指導の研究と指揮法の実践
- 第4回 音楽教育の今日的課題と特別活動における音楽科
- 第5回 学習指導案と評価の方法 リコーダー演習①導入教材の研究
- 第6回 学習指導案の作成 リコーダー演習②サミングと高音
- 第7回 手づくり楽器の製作 リコーダー演習③スタッカーとスラー
- 第8回 模擬授業 (歌唱)
- 第9回 模擬授業 (リコーダー)
- 第10回 模擬授業 (鑑賞)
- 第11回 模擬授業についてのディスカッション リコーダー演習④フアのポジション
- 第12回 音楽会の運営と器楽合奏 リコーダー演習⑤教科書教材曲のアンサンブル
- 第13回 音楽づくりの概念 リコーダー演習⑥副教材のアンサンブル
- 第14回 リコーダーのテストと音楽づくり演習
- 第15回 総合演習

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

「音楽科教育」の授業内容を復習しておくこと。パロッド式ソプラノリコーダーを持っていない場合は、初回の授業時に購入 (1000円程度) の申し込みをすること。手作り楽器製作に当たり1回あたり150円程度の材料費がかかる場合がある。

講義コード (Course Code)	245067N1J
授業名 (Course Title)	公的扶助論
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担当者 (Instructor)	柴田 周二
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	34
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『保護のてびき 平成 29 年版』生活保護制度研究会第一法規 2017 年
参考文献 (References)	『生活保護から考える』稲葉剛岩波新書 2013 『子どもの貧困』阿部彩岩波新書 2013 『住宅貧乏物語』早川和男岩波新書 2013 『公的扶助論』籠山京光生館 2013 『戦後日本における貧困層の創出過程』籠山京光東京大学出版会 2013 授業の中で適宜紹介する。
備考 (Note)	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

公的扶助 (生活保護) 制度は人々の生存権を保障するための生活保障制度である。まずは貧困・低所得層の生活実態と政策動向について学ぶ。その上でわが国及び欧米における公的扶助制度の歴史を概観し、そして生活保護の原理及び原則について具体的事例を交えながら理解を深める。最後に昨今のわが国における政策課題ともいえる、自立支援プログラムの意義とその実際とホームレス支援の課題について学ぶ。

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- ①貧困・低所得者の生活実態と政策動向を理解する
- ②公的扶助制度の歴史と意義を理解する。
- ③生活保護制度の原理、原則、組織や専門職の役割を理解する。
- ④自立支援プログラムの実際を理解する。
- ⑤低所得者における住宅政策の重要性を理解する。

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

- ①貧困・低所得者の生活実態と政策動向を理解する
- ②公的扶助制度の歴史と意義を理解する。
- ③生活保護制度の原理、原則、組織や専門職の役割を理解する。
- ④自立支援プログラムの実際を理解する。
- ⑤低所得者における住宅政策の重要性を理解する。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- ①テキストを読んでおくこと。
  - ②新聞やテレビなどのニュースに関心を持ち、授業中に紹介する参考文献も読んでみる。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、平常点 (15 点)、小テスト (15 点)、定期試験 (70 点) とする。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 現代社会における貧困の諸相
- 第 3 回 公的扶助制度の歴史と社会保障
- 第 4 回 生活保護制度の実施体制
- 第 5 回 生活保護制度の基本原則
- 第 6 回 保護の内容
- 第 7 回 保護の要否判定
- 第 8 回 被保護者の権利と義務
- 第 9 回 最低生活保障水準と生活保護基準
- 第 10 回 生活保護制度の動向と財源
- 第 11 回 専門職の役割と相談援助
- 第 12 回 自立支援プログラムの意義と実際
- 第 13 回 ホームレス支援
- 第 14 回 低所得者対策と住宅政策
- 第 15 回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

実施する・持込不可

### 7. 留意事項 (Other Information)

授業の都合上、シラバスの一部変更もありうる。

講義コード (Course Code)	245318Z0J
授業名 (Course Title)	基礎技能造形 Z
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15 時間
担当者 (Instructor)	藤本 陽三
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	2
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『美術教育概論 (改訂版)』大橋 功日本 文教出版 2009 『保育所保育指針解説』厚生労働省
参考文献 (References)	
備考 (Note)	保育士養成課程専用クラス

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

「保育所保育指針」に示された「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」の具現化を図るため、幼児教育における造形の指導を行ううえで必要となる基礎的・基本的な知識や技能を習得するとともに、受講者自身が造形の楽しさや喜びを体験し、感性を豊かにする。

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 造形活動に必要な材料・用具についての基礎的・基本的な知識・技能を習得する。
- (2) さまざまな表現方法を体験し、「かくこと」「つくること」の楽しさや喜びを味わいつつ、感性を豊かにする。

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

- (1) 造形活動に必要な材料・用具についての基礎的・基本的な知識・技能を習得する。
- (2) さまざまな表現方法を体験し、「かくこと」「つくること」の楽しさや喜びを味わいつつ、感性を豊かにする。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

今回の学習内容について、提示する資料等により予習するとともに、必要に応じて材料等を準備する。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
40 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (30%)、作品等の提出課題 [小レポートも含む] (70%)

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 造形遊び① (材料・素材遊び…並べる・積む)
- 第 3 回 造形遊び② (材料・素材遊び…組み合わせる)
- 第 4 回 造形遊び③ (技法・道具遊び)
- 第 5 回 絵や立体に表す① (材料・用具の使い方…パス・クレヨン他)
- 第 6 回 絵や立体に表す② (材料・用具の使い方…絵具他)
- 第 7 回 絵や立体に表す③ (観察からの表現)
- 第 8 回 絵や立体に表す④ (経験からの表現)
- 第 9 回 絵や立体に表す⑤ (お話・空想からの表現)
- 第 10 回 絵や立体に表す⑥ (まとめ…心象表現)
- 第 11 回 遊んだり・使ったりするものをつくる① (用途を考えた表現…「使う」)
- 第 12 回 遊んだり・使ったりするものをつくる② (用途を考えた表現…「飾る」)
- 第 13 回 遊んだり・使ったりするものをつくる③ (機能を考えた表現…「動く」)
- 第 14 回 遊んだり・使ったりするものをつくる④ (機能を考えた表現…「音が出る」)
- 第 15 回 遊んだり・使ったりするものをつくる⑤ (まとめ…適用表現)

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

講義コード (Course Code)	245346Z0J
授 業 名 (Course Title)	保育相談支援Ⅱ
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15 時間
担 当 者 (Instructor)	亀田 十未代
単 位 数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	34
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『保育士資格取得特例協科目テキストシリーズ『相談支援』『相談支援』編集委員会 編株式会社みらい2014. 9. 20
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	保育士養成課程専用クラス

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

子どもの保育の専門性を有する保育士として、保育に関する専門的知識・技術を背景としながら、保護者が求めている子育ての問題や課題に対して、保護者の気持ちを受け止めつつ、安定した親子関係や養育力の向上を目指して、保護者に対する支援を行っていくことが求められている。

本科目では、保護者に対する支援を行っていくための実践力の基礎を体得していくことを目指している。

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。
2. 保護者支援の基本を理解する。
3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。
4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。
2. 保護者支援の基本を理解する。
3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。
4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。

### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

予習として、授業で取り上げる内容についてテキストを熟読すること。  
・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
15 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

出席 (30%)、授業参加度(30%)、レポート(40%)に基づいて、総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- |                           |                                 |
|---------------------------|---------------------------------|
| 第1回 オリエンテーション             | 保育相談支援を学ぶにあたって                  |
| 第2回 保育相談支援の意義             |                                 |
| 第3回 保育相談支援の基本             | ①保育相談支援における基本的な視点               |
| 第4回 保育相談支援の基本             | ②保育の特性と保育者の専門性を生かした支援           |
| 第5回 保育相談支援の基本             | ③保護者との信頼関係を築くかかわり方 (相談支援の原則と倫理) |
| 第6回 保育相談支援の基本             | ④地域の資源の活用と関係機関との連携              |
| 第7回 保育相談支援の実際             | ①保育相談支援の展開過程と支援の組み立て            |
| 第8回 保育相談支援の実際             | ②保育相談支援の計画と記録                   |
| 第9回 保育相談支援の実際             | ③保育相談支援の展開場面と評価                 |
| 第10回 児童福祉施設における保育相談支援     | ①保育所において特別な対応を要する家庭支援の実際        |
| 第11回 児童福祉施設における保育相談支援     | ②児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援          |
| 第12回 児童養護施設における保育相談支援     | ③障害児施設での相談支援                    |
| 第13回 児童養護施設における保育相談支援     | ④母子生活支援施設での相談支援                 |
| 第14回 「保育士が行う地域支援の実際」を見学実習 |                                 |
| 第15回 まとめ                  |                                 |

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

講義コード (Course Code)	245283N1J
授 業 名 (Course Title)	福祉行財政と福祉計画
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担 当 者 (Instructor)	柴田 周二
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	34
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『新・社会福祉士養成講座 10 福祉行財政と福祉計画 第5版』社会福祉士養成講座編集委員会中央法規 2017
参考文献 (References)	『人間回復の経済学』神野直彦岩波新書 2002 授業の中で適宜紹介する。
備 考 (Note)	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

福祉行財政の基礎的な知識をふまえた上で、住民自治の視点から福祉計画のあり方を学ぶ。具体的には、①福祉行政の実施体制について、国、都道府県、市町村それぞれの役割と政府間関係を学び、②国と地方双方の福祉財政の内容を理解する。その際、国の社会保障関係費及び地方自治体の民生費については詳しく説明する。最後に①と②をふまえ、各種福祉計画の目的、意義、主体、方法について事例検討を通して学ぶ。また実際に地域福祉計画を策定することを通して福祉計画に対する理解を深める。

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- ①福祉の動向を理解する。
- ②福祉行政の実施体制 (国、都道府県、市町村それぞれの役割と政府間関係)を理解する。
- ③国と地方の福祉財政 (社会保障関係費及び地方自治体の民生費など)を理解する。
- ④福祉の相談過程と専門職の役割を理解する。
- ⑤福祉計画の実際を理解する。

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

- ①福祉の動向を理解する。
- ②福祉行政の実施体制 (国、都道府県、市町村それぞれの役割と政府間関係)を理解する。
- ③国と地方の福祉財政 (社会保障関係費及び地方自治体の民生費など)を理解する。
- ④福祉の相談過程と専門職の役割を理解する。
- ⑤福祉計画の実際を理解する。

### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

①テキストを読んでくること。  
②新聞やテレビなどのニュースに関心を持ち、授業中に紹介する参考文献も読んでみる。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
30 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

評価は、平常点 (15 点)、レポート (15 点)、定期試験 (70 点) とする。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- |                                    |  |
|------------------------------------|--|
| 第1回 オリエンテーション                      |  |
| 第2回 福祉と制度                          |  |
| 第3回 福祉の法制度の展開と福祉計画の課題              |  |
| 第4回 福祉行政の組織                        |  |
| 第5回 社会福祉基礎構造改革                     |  |
| 第6回 福祉財政の仕組み                       |  |
| 第7回 福祉の相談過程と専門職の役割①(福祉事務所、児童相談所など) |  |
| 第8回 福祉の相談過程と専門職の役割②(地域包括支援センターなど)  |  |
| 第9回 福祉計画の目的と意義                     |  |
| 第10回 福祉計画の理論と技法                    |  |
| 第11回 福祉計画の実際                       |  |
| 第12回 老人福祉計画・介護保険事業計画               |  |
| 第13回 障害者計画・障害福祉計画                  |  |
| 第14回 次世代育成支援行動計画・地域福祉計画            |  |
| 第15回 まとめ                           |  |

### 6. 定期試験 (Final Exam)

実施する・持込不可

### 7. 留意事項 (Other Information)

講義の都合上、シラバスの一部変更もありうる。

講義コード (Course Code)	265110N0J
授業名 (Course Title)	現代社会調査演習 I
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担当者 (Instructor)	後藤 伸彦
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	34
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

講義コード (Course Code)	265111N0J
授業名 (Course Title)	現代社会調査演習 II
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担当者 (Instructor)	後藤 伸彦
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	34
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	
備考 (Note)	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

本科目では、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までにわたる社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。現代社会調査演習 I では、「大学生生活」に関わるテーマについて、受講生がいくつかのグループに分かれ、各班で小テーマの設定、既存の調査研究の整理、仮説の設定、質問項目の作成を行う。各班から出された質問項目を元に質問紙を完成させ、調査の実施、データ入力を行う。

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
3. 質問紙作成に関する知識や技術を習得する。
4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する。

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
3. 質問紙作成に関する知識や技術を習得する。
4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業中に指示するが、「質問紙調査法」や「現代社会調査入門」で学んだ内容を復習しながら授業に臨むこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
40 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (30%)、課題の提出および最終レポート (70%) により、総合的に評価を行う。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 調査の企画
- 第3回 テーマの設定①小テーマ候補の考案
- 第4回 テーマの設定②小テーマの決定
- 第5回 先行研究・文献の収集、整理
- 第6回 仮説の構成
- 第7回 質問項目・尺度の資料収集
- 第8回 質問項目・尺度の検討
- 第9回 質問紙の作成
- 第10回 質問紙の完成
- 第11回 調査の実施に向けて
- 第12回 調査の実施
- 第13回 データ入力
- 第14回 エディティング
- 第15回 まとめ

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

現代社会調査演習 II と合わせて履修すること。

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

本科目では、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までにわたる社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。現代社会調査演習 II では、現代社会調査演習 I で得られたデータを分析し、結果の解釈、仮説の検証、報告書の作成を行う。

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. データ集計やデータ処理に関する知識や技術を習得する。
2. 統計的検定の基本概念を理解する。
3. Excel や SPSS の操作方法を習得する。
4. 結果を解釈し、表現する力を身につける。

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

1. データ集計やデータ処理に関する知識や技術を習得する。
2. 統計的検定の基本概念を理解する。
3. Excel や SPSS の操作方法を習得する。
4. 結果を解釈し、表現する力を身につける。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業中に指示するが、「心理統計法」や「推測統計学」で学んだ内容を復習しながら授業に臨むこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))  
40 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (30%)、成果発表、報告書、最終レポート (70%) により、総合的に評価を行う。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 データの基礎集計①度数分布、平均の算出
- 第2回 データの基礎集計②結果の図表作成と解釈
- 第3回 相関係数①分析の実施
- 第4回 相関係数②結果の図表作成と解釈
- 第5回 t 検定①分析の実施
- 第6回 t 検定②結果の図表作成と解釈
- 第7回 分散分析①分析の実施
- 第8回 分散分析②結果の図表作成と解釈
- 第9回  $\chi^2$  検定①分析の実施
- 第10回  $\chi^2$  検定②結果の図表作成と解釈
- 第11回 仮説の検証
- 第12回 成果発表に向けての準備
- 第13回 成果発表
- 第14回 報告書案の作成
- 第15回 報告書の完成

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

現代社会調査演習 I と合わせて履修すること。

講義コード (Course Code)	268044N0J
授業名 (Course Title)	音楽科指導法 (16 以前)
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担当者 (Instructor)	古庵 晶子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	3
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『小学校学習指導要領解説 音楽編』文部科学省東洋館出版社 2018 『はじめて学ぶ教科教育「初等音楽科」』吉田武男監修ミネルヴァ書房 2018 適宜プリント配布
参考文献 (References)	
備考 (Note)	「音楽科教育」履修者であること

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

小学校音楽科の理念と目標を踏まえつつ、隣接校種の連携 (幼小および小中) を考慮し、音楽教育を幅広く捉えることができる。表現・音楽づくり・鑑賞の各領域の授業プランを構想することができる。パロックスリコーダーの利点を理解し、演奏できるようにする。

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 学習指導要領について理解する。
2. 学習指導案を作成し、ピアノ伴奏を取り入れた模擬授業をする。
3. パロックスリコーダーに対する苦手意識を払拭する。
4. 手作り楽器製作を行い、幼小連携および小中連携に音楽科が貢献できる内容を模索する。

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 学習指導要領について理解する。
2. 学習指導案を作成し、ピアノ伴奏を取り入れた模擬授業をする。
3. パロックスリコーダーに対する苦手意識を払拭する。
4. 手作り楽器製作を行い、幼小連携および小中連携に音楽科が貢献できる内容を模索する。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

リコーダーとピアノは毎日の積み重ねが不可欠なため、練習を怠らないこと。手作り楽器製作のため、廃材の準備をしておくこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 15 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

授業参加度 10% 模擬授業と音楽づくり 30% 学習指導案 20% リコーダーのテスト 20% ピアノ伴奏 20% 授業に関連のない目的での携帯電話使用等は減点の対象とする。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 音楽教育の歴史と小学校学習指導要領 (音楽) の概説  
リコーダーの種類とパロックスリコーダー
- 第2回 歌唱指導の研究と演習 手作り楽器の教育的意義
- 第3回 鑑賞指導の研究と指揮法の実践
- 第4回 音楽教育の今日的課題と特別活動における音楽科
- 第5回 学習指導案と評価の方法 リコーダー演習①導入教材の研究
- 第6回 学習指導案の作成 リコーダー演習②サミングと高音
- 第7回 手作り楽器の製作 リコーダー演習③スタカートとスラー
- 第8回 模擬授業 (歌唱)
- 第9回 模擬授業 (リコーダー)
- 第10回 模擬授業 (鑑賞)
- 第11回 模擬授業についてのディスカッション リコーダー演習④フアのポジション
- 第12回 音楽会の運営と器楽合奏リコーダー演習⑤教科書教材曲のアンサンブル
- 第13回 音楽づくりの概念 リコーダー演習⑥副教材のアンサンブル
- 第14回 リコーダーのテストと音楽づくり演習
- 第15回 総合演習

### 6. 定期試験 (Final Exam)

なし

### 7. 留意事項 (Other Information)

「音楽科教育」の授業内容を復習しておくこと。パロックスリコーダーを持っていない場合は、初回の授業時に購入 (1000 円程度) の申し込みをすること。手作り楽器製作にあたり 1 回あたり 150 円程度の材料費がかかる場合がある。

講義コード (Course Code)	268050N0J
授業名 (Course Title)	保育内容指導法 (環境)
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担当者 (Instructor)	田中 文昭
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	2
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『保育内容「環境」第2版』秋田喜代美・増田時枝・安見克夫 編 (株)みらい 2009 年
参考文献 (References)	『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』文部科学省・厚生労働省・内閣府チャイルド本社 2017 年
備考 (Note)	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

領域「環境」の意義や基本的な考え方を知り、幼児における環境の意味を学び、環境をどのように構成していくことが、子どもの育ちにとって必要であるかを理解する。また領域「環境」と他の領域との関連についても理解を深める。

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 保育現場で必要とされている環境構成についての概要を学び、実践例を通して学びを深めることで保育者としての視座を理解できるようになる。
2. 保育における環境領域についての基本を理解し、人的環境として大切な保育者の役割を理解することで、自分自身が目標とする保育者像がイメージできるようになる。

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 保育現場で必要とされている環境構成についての概要を学び、実践例を通して学びを深めることで保育者としての視座を理解できるようになる。
2. 保育における環境領域についての基本を理解し、人的環境として大切な保育者の役割を理解することで、自分自身が目標とする保育者像がイメージできるようになる。

#### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

新幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「環境」領域について読んでおく。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 30 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

授業内課題 (20%)、授業態度 (20%)、期末試験 (60%) に基づいて総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション これからの学びにひつような姿勢と考え方
- 第2回 幼児における環境とは
- 第3回 幼児を取り巻く環境の現状
- 第4回 物的な環境としての遊具や園具
- 第5回 人的な環境としての保育者の役割
- 第6回 これまでの復習を兼ねての演習 (課題は授業内で発表)
- 第7回 自然事象への関心
- 第8回 生き物との関り
- 第9回 身近な素材の活用
- 第10回 地域との交流
- 第11回 子どもを守る安全な環境
- 第12回 これまでの復習を兼ねての演習 (課題は授業内で発表)
- 第13回 保育実践事例 (1)  
異年齢との関りの中で育つ環境について学ぶ
- 第14回 保育実践事例 (2)  
身近な素材を使った環境について学ぶ
- 第15回 保育実践事例 (3)  
子育て支援を通しての領域「環境」のまとめを行う

### 6. 定期試験 (Final Exam)

実施する・持込不可

### 7. 留意事項 (Other Information)

この授業では、子どもの発達を促す保育内容「環境」とはどのようなものかについて、日ごろから幼児教育の現場 (幼稚園等) から情報を得るように努めてください。

講義コード (Course Code)	268051N0J
授 業 名 (Course Title)	保育内容指導法 (言葉)
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担 当 者 (Instructor)	田中 文昭
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	2
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『保育内容「言葉」』小田豊・芦田宏 編 著北大路書房 2011 年
参考文献 (References)	『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども 園教育・保育要領(原本)』文部科学省・ 厚生労働省・内閣府チャイルド本社 2017 年
備 考 (Note)	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

領域「言葉」の意義や基本的な考え方を知り、幼児の言語発達のプロセスを理解する。また保育者が幼児と関わるうえで、言語発達のプロセスを理解し保育実践をしていく重要性を実践事例から学ぶ。実践事例を通して学ぶことにより、領域「言葉」と他の領域との関連についても理解を深める。

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 領域「言葉」に関する基本的なことを知り、理解することができる。
2. 言葉を豊かに育む保育の指導方法を実践事例を通して学ぶ。
3. 演習を通して仲間と相談し、意見や考え方の多様性を理解することで自らの学びを深める。

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 領域「言葉」に関する基本的なことを知り、理解することができる。
2. 言葉を豊かに育む保育の指導方法を実践事例を通して学ぶ。
3. 演習を通して仲間と相談し、意見や考え方の多様性を理解することで自らの学びを深める。

### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業前の学習としては指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。

### ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

授業内課題 (20%)、授業態度 (20%)、期末試験 (60%) に基づいて総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション これからの学びに必要な姿勢と考え方
- 第2回 子どもの育ちと言葉
- 第3回 コミュニケーションとしての言葉
- 第4回 領域「言葉」について 領域「言葉」の意図するところ、言葉の指導の領域、領域「言葉」と他の領域との関係
- 第5回 言葉の発達プロセス
- 第6回 これまでの復習を兼ねての演習 (課題は授業内で発表)
- 第7回 言葉を育てる保育環境
- 第8回 言葉を育てる教具・教材
- 第9回 絵本の読み聞かせの実践
- 第10回 仲間と共に育つ言葉
- 第11回 地域社会と言葉
- 第12回 これまでの復習を兼ねての演習 (課題は授業内で発表)
- 第13回 保育実践事例から考える 子どもの言葉の発達を支える保育者の関わり (1) 文字指導と領域「言葉」、子どもの育ちと言葉の暗唱
- 第14回 保育実践事例から考える 子どもの言葉の発達を支える保育者の関わり (2) 当番活動、歌の指導などを題材にして
- 第15回 保育実践事例から考える 領域「言葉」を意識した保育実践発表会を例にして

### 6. 定期試験 (Final Exam)

実施する・持込不可

### 7. 留意事項 (Other Information)

授業内容が変更となる場合は事前に連絡する。

講義コード (Course Code)	268052N0J
授 業 名 (Course Title)	保育内容指導法 (表現)
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60 時間
担 当 者 (Instructor)	植田 恵理子、藤本 陽三
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	2
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『【コンパクト版 保育内容シリーズ】音楽表現』渡辺厚美・植田恵理子他一藝社 2017 授業内で販売します。
参考文献 (References)	『保育の表現技術実践ワーク-かんじる・かんがえる・つくる・つたえる-』今井真理・植田恵理子他保育出版社 2016 2016 その他、授業内でプリント等を配布します。
備 考 (Note)	

### 1. 科目の教育目標 (Course Description)

保育所・幼稚園において、保育の目標を達成するために展開されている保育内容の「表現」の領域について学ぶ。「学びにつながる遊びの活動」をテーマに、子どもの主体的・創造的・協同的な表現活動を引き出すために必要な環境、援助を考え、具体的な指導方法を習得する。

### 2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 「幼稚園教育要領」の領域「表現」のねらいと内容について学ぶ。
2. 造形、音楽、劇 (ごっこ)、身体、言葉といった表現媒体についてそれぞれ理解を深めるとともに、それらが未分化な形として表 (現) れる幼児への具体的な指導方法を体験的に学ぶ。
3. 幼児の豊かな表現を引き出す基盤として自らの発想を拓き、仲間とともに感性を磨く。

### 3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 「幼稚園教育要領」の領域「表現」のねらいと内容について学ぶ。
2. 造形、音楽、劇 (ごっこ)、身体、言葉といった表現媒体についてそれぞれ理解を深めるとともに、それらが未分化な形として表 (現) れる幼児への具体的な指導方法を体験的に学ぶ。
3. 幼児の豊かな表現を引き出す基盤として自らの発想を拓き、仲間とともに感性を磨く。

### ・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 「幼稚園教育要領」のねらい及び内容の「表現」について目を通しておくこと。
2. 心と体の調子を整え、優しく受容的な気持ちで、かつアクティブな姿勢を携えて授業に臨むこと。

### ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30 時間

### 4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価方法・評価基準<br>(Evaluation)

授業参加度 (10%)、提出物 (30%)、確認テスト (60%) に基づいて、総合的に評価する。

### 5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 保育内容「表現」の意義 (担当: 植田恵理子)
- 第2回 遊びから表現活動へ (担当: 植田恵理子)
- 第3回 生活の中から生まれる音楽表現・造形表現 (担当: 植田恵理子、藤本陽三)
- 第4回 子どもの育ちからみる身体表現と音楽表現 (担当: 植田恵理子)
- 第5回 演劇要素を取り入れた表現1 ~わらべうたを活用して~ (担当: 植田恵理子)
- 第6回 演劇要素を取り入れた表現2 ~身体表現活動~ (担当: 植田恵理子)
- 第7回 演劇要素を取り入れた表現3 ~子どもの表現と他者との関わり~ (担当: 植田恵理子)
- 第8回 素材を生かした表現活動1 ~音楽・造形表現からのアプローチ~ (担当: 植田恵理子、藤本陽三)
- 第9回 素材を生かした表現活動2 ~音楽・身体表現からのアプローチ~ (担当: 植田恵理子)
- 第10回 総合的な表現活動 ~造形・音楽・身体表現を総合的に取り入れるために~ (担当: 植田恵理子、藤本陽三)
- 第11回 指導計画 (1) 教材研究 (担当: 植田恵理子、藤本陽三)
- 第12回 指導計画 (2) 指導案作成 (担当: 植田恵理子、藤本陽三)
- 第13回 指導計画 (3) 模擬授業 指導計画の評価 (担当: 植田恵理子)

子、藤本陽三)

第14回 表現活動の企画 まとめとグループ発表準備 (担当: 植田恵理子)

第15回 授業内発表 (確認テスト) 質疑応答 (担当: 植田恵理子)

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

動きやすい服装で授業に参加すること